

高橋伸吉

平成二十八年十一月号

特集

神田川 その歴史と未来

表紙の人 拡大版

東亜グラウト工業株式会社 大岡 伸吉さん

レインボータウンFM 番組表

隅田川ボート記念碑

日本のボート競技の聖地に

明治時代初期から続く歴史を伝える

「隅田川ボート記念碑」が建った

■ボート競技の

中心地だった隅田川

2016年9月3日土曜日、隅田川の墨堤「隅田川ボート記念碑」の除幕式が開催された。関係者およそ200人が見守る中、元東大ボート部出身で記念碑建設委員会会長の作家・半藤一利氏、山本亨墨田区長、木村新日本ボート協会理事長、加藤裕之国土交通省下水道事業課長・GKP運営委員長（日本下水道協会）によって除幕された記念碑は、縦180センチ幅110センチの御影石製。表面に「漕」の文字と隅田川とボートのつながりを記した半藤一利氏の碑文が、裏面には一九五四年に英国のケンブリッジ大を招いた大会の写真が刻まれている。また、明治から昭和までの隅田川とボートの歴史を紹介する年表表示板も同時に設置され記念碑とともに墨田区に寄贈された。

場所は隅田川と隅田公園に挟まれた静かな環境で、明治天皇海軍漕艇天覧記念跡地へ設けられた「玉座跡記念碑」の横にあたる。かつて隅田川は日本におけるチームボート競技の中心地として栄えた。明治初期から漕艇が始まり、東京大学と一橋大学の「東商レガッタ」や一時の中断はあったものの今もこの隅田川で開催されている早稲田大学と慶應義塾大学の「早慶レガッタ」など、幾多の名勝負が生まれ、毎年数万人の観客が押し寄せたのである。当時のメディアはこの様子を「近代文化の華」と表現していた。

かの夏目漱石や福沢諭吉も隅田川でボートを漕ぎ、滝廉太郎の「花」にも謳われた隅田川のボートのものがたりが、「隅田川ボート記念碑」

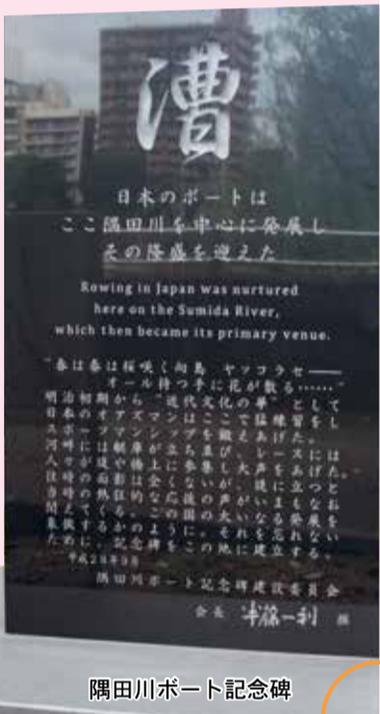
の完成で後世に伝えられることになった。まさにボートの聖地とも言える場所に記念碑ができたのである。

「隅田川ボート記念碑」にゆかりのある方にお話をうかがった。（敬称略）

■大久保尚武日本ボート協会会長



私は北海道出身なのですが、昭和29年、私が中学三年生の時に北海道大学が全国大会で優勝したのです。初めて優勝杯である秩父宮杯が津軽海峡を渡ったということで当時大騒ぎになりました。北大の堀内寿郎監督と戦前ベルリン・オリンピックに出場された東京大学の名選手、根岸正さんの対談が北海道新聞に掲載されていましたね。感動して、いつか大学に入ったらボートを漕ごうと心に決めました。ところがせっかく東京大学に入学しても、私が小柄だったせいなのか、ボート部は勧誘に来てくれませんでした。それで自分から部屋に出かけて行って入れてもらいました。昭和33年でしたが、その頃の隅田川の汚かったことにはびっくりしましたね。綾瀬の江戸川との合流点付近では、隅田川の水と



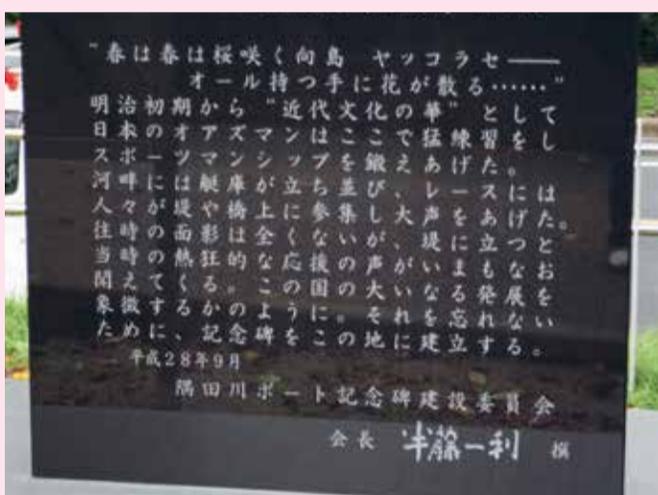
隅田川ボート記念碑

荒川の水がくつきりと分かれて川が二色になっていたくらいです。昭和36年に卒業を控えて行われた4マイルクォーターが学生時代最後のレースでしたが、それ以降、隅田川での長距離レースはなくなっていました。

あの記念碑ができて、素晴らしいものができたと思う反面、どこかでこれで隅田川の漕艇も歴史の一部になってしまったのかな、という感慨もありますね。

速報

大久保尚武氏（積水化学工業株式会社相談役）が2016日本デミング賞（総合品質管理に関する世界最高ランクの賞）を受賞されました。



半藤一利さんの撰文

江戸っ子「癒し系占い師」

夏雲先生のスピリチュアル講座12

皆様、今年はどうな年でしたか？過去を振り返ると、辛いこと、辛いこと…を思い出しがちですが、時には忘れていた小さな幸せを思い出してみても必要かもしれません。私は今年の4月にパワースポットとして注目されている聖地セドナに行き、大地のエネルギーをいっぱい受け取りました。

来年の笑顔が増えますように、願いを込めて、高次元から受け取ったメッセージをお届けします。

一月生まれ：善は急げ！来年の開運の力ギ

二月生まれ：みんなが集まるのが大事。

三月生まれ：塵も積もれば山となる。始めは小さな幸せでも、やがては大きな喜びへと繋がりますよ。

四月生まれ：開運の力ギは新しい自分！新しい未来！気持ち切り替え、これから待っている幸せに目をむけて。

五月生まれ：平和に解決を。争い事がある持ちで人に接して運氣アップ。

六月生まれ：目標を掲げて開運へ。年初めに目標を決めることで、より確かな幸運を引き寄せられます。

七月生まれ：心を澄ませてから選択を！自分の心の声に従うことで「良かった」と思える結果に。

八月生まれ：部屋に引きこもっていないで積極的に外に出て下さい。太陽の光が、笑顔の源になります。

九月生まれ：楽しいおしゃべりが運気を変えます。明るい話題を提供することで、明るい一年に。

十月生まれ：錬金術？あなたの工夫次第で、あらゆることを喜びに変えられます。まるで魔法のよう。

十一月生まれ：キーワードはリーダーシップ！人々を笑顔にすることで、あなたも笑顔になれます。

十二月生まれ：当たり前のことを大切に。当たり前のことが、当たり前であることで、笑顔でいられます。

うたたねこ新丸子店は、年末年始はお休みです。気楽になんでも相談におこしくたさい。

プロフィール
夏雲（かうん）
タロット、西洋占星術
生まれも育ちも「江戸っ子」。祖父の代から占術師の血を継ぎ活躍しています。

占い部屋 うたたねこ
新丸子店・TEL 044(733)7858
毎週 金曜・日曜日出演

恵比寿店・TEL 03(6721)7893
毎週 土曜日・月曜日出演



■谷古善和東京都ボート協会副会長



今回の記念碑を作ってくれたのは大学のボート部OBたちです。彼らが発起人となり、募金をし、奔走してくれたのです。墨堤は桜が大切にされる場所ですから、桜の木に影響のある場所はよろしくないということで、設置場所についてはご苦労をされたようですが、最終的には良い場所に建ちましたね。記念碑を作っていたことは大変感謝しています。これをきっかけに「親水」といいますか、多くの方が水に接するチャンスが増えたら嬉しいですね。そのためには、人が接することのできるきれいな水が必要です。岸辺の整備も大切です。いまのボートはよく沈没しますよね。あれは直立した護岸のせいで波があたって跳ね返ってくるこ

とが大きな原因です。怖がって岸に近寄るといつそう波の影響を受けやすくなるんですね。川岸が昔のようにスロープ状になっていけば上手に波を消してくれるのです。その形状なら人も川水に接しやすくなりますよね。水害のこともありますが「人に近い川」になると良いですね。



隅田川ボート記念碑と年表表示版

きました。なによりもボート競技が隅田川に戻ってきたということは水がきれいになったということ、これまで川に背を向けてしまっていた両岸の飲食のお店が徐々に川の方に向くようになってきました。ここ数年は行われていませんが、毎年早慶レガッタの折には、ここ仲見世で「お練り」が行われて来ました。いわば、撥を上げて応援したわけです。そういう私は慶應の志木高校時代、剣道部員だったので、当時の監督だった先生がその後ボート部の監督になられましたね。毎年早慶レガッタにおいでになっていたのですが、私の顔を見るたびに、君たち剣道部は一度もインターハイには連れて行ってくれなかったがボート部は毎年行かせてくれるぞ、と言われたことを思い出しました。

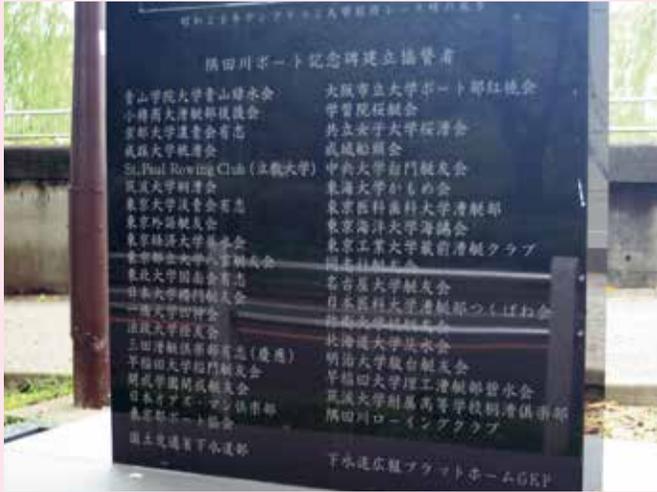
ちにとってシンボル・聖地になるようなところが欲しいと思っていました。もともとラグビー、野球などの学生スポーツが好きで神宮には足を運んでいましたが、数年前に何気なく春の早慶レガッタを見に行ったらときに、学生からOB、地域の方々の一体となった熱気に感動し、なんとか下水道と目に見える形で結びつけられないか考え私なりに応援してきましたが、偶然にもこのような歴史的な機会に巡り合えました。我々、下水道関係者もボート関係者のような一致団結力を見習い、日本の水環境がもっともっと末永く美しくなるよう努力していきます。それにしても、ボート関係者はご年配の方々も皆さん体格ががっしりしてお元気なのは驚きました。

■加藤裕之国土交通省下水道事業課長



「漕」の記念碑へ協力団体として「下水道」の文字が入るとい、お話をいただいた時、変な言い方かもしれませんが、「来た！」、という声が聞こえた気がします。下水道はそこに儼然と存在しながら、日々の生活になくはならないものなのに、本当に目立たないインフラです。一時期は汚れて橋を渡ることさえ躊躇された隅田川が下水道整備等により復活し、火花が、そして世界の学生スポーツの象徴のようなボート競技が帰ってきた。そこには今でも多くの下水道関係者が貢献していることをご理解いただき、目を向けていただいたいことに感謝します。

これからも人が生活する限り必要なインフラです。全国の下水道に尽力いただいている人た



碑に刻まれた建立協賛者

■富士滋美浅草観光連盟会長



私の母が早慶レガッタの大ファンだったので。母の従兄弟は軍医だったのですが、あの戦争で亡くなってしまいました。彼は慶応ボート部だったのです。そんなこともあって、観光協会としてはもとより、私個人としても応援して



2016年 早慶レガッタの様



2016年 早慶レガッタの様

METAWATER



くらし、産業の基盤を支える
水・環境トータルソリューションカンパニー

メタウォーター株式会社

www.metawater.co.jp

東京都千代田区神田須田町一丁目 25 番地 JR 神田万世橋ビル

東証一部上場
証券コード9551

「地下鉄から下水道」 下町生まれの企業を築き上げた一代記。

■始まりは黒門町

下水道にまつわるさまざまな工事や技術革新について調べると、大手の大企業に混じって随所に登場する企業名が「東亜グラウト工業株式会社」だ。

調べてみると、創業は昭和33年、台東区黒門町23番地とある。黒門町（現・台東区上野1丁目から3丁目一帯）と聞けば思い出すのは、黒門町の師匠「あるいは単に「黒門町」と呼ばれた8代目桂文楽さんである。戦後の落語を語る上で欠かすことのできない名人のひとり、ライバルでもあり盟友でもあった5代目古今亭志ん生さんの破天荒な芸風と人気を二分し、端正で丁寧な芸風で知られた噺家だ。

「黒門町」と聞いては、下町に思い入れのある本紙としては黙っていられない。早速「東亜グラウト工業株式会社（以下・東亜グラウト）」の創業者で現在は相談役の大岡伸吉さんにお話を伺うことにした。

■噺家のような口調はどこから？

大岡伸吉さんのお生まれは横浜市。お父上は税関にお勤めだったとのこと、横浜を皮切りに全国あちこちの港に転勤したという。神戸などは、外では関西、家の中では関東、という生活だったそうで、そうした中で育った大岡さん



は、いきおい関東弁を磨いていったようだ。

お話を伺うと、大岡さんのその口調はあたたかも文楽さんの話芸を彷彿とさせるようで、知らず知らずのうちに落語の世界に引き込まれるように聞き入っていると、とても楽しく、そしてわかりやすい。かなり難しい専門的な内容でも大岡さんがお話しになるとすんなり理解できるから不思議だ。また幅広い話題をお持ちで、お話を端々に豊富な人生経験や体験がにじみ出てくる。

横濱生まれの創業者は

噺家のような江戸っ子口調で人生を語った。

もちろん経営者としての視点も確かなもので、ポリシーに基づく経営哲学は傾聴に値する。そんな伸吉さんに伺ったお話の一部をご紹介します。

■地盤改良・斜面防災・下水道の三本柱

黒門町で起業した東亜グラウト。社名の「グラウト」とは、建設工事などの際に発生する空洞、空隙、隙間を埋める充填材のことであり、地盤改良のみならず鉄骨・鉄筋の充填材、補修材料など幅広い用途を持つ。セメント（モルタル）系、ガラス系、合成樹脂などのさまざまな種類がある。

東亜グラウトが上野広小路近くの黒門町で創業したのは、地下鉄工事における地盤改良が当時の主たる業務だったからであり、地下鉄東西線の工事の際には事務所は江東区の木場にありました。業務拡張に伴い、社員が増えるに従って、より広い場所に移ることを繰り返し、2006年（平成18年）に現在の四谷の本社ビルに定着するまで数え切れない程の本社移転があったという。

を守る斜面防災などを推進しながら、東京での地下鉄工事が一段落した頃から、下水道関連の事業にも力を注ぎ、とくに既設の下水道管の補修について、震災に備えての耐震化対策、耐用年数が近づいた管路（ライフライン）の維持管理等の調査診断、修繕・改築によって予防保全や機能の回復を行うことが主な業務となってきたそうだ。



大岡さんはホテルなどでも講演することが多いそうで、そんな折にはホテルの関係者に、インフラで何が大事だと思えますか、とお聞きになるそうという。電気、ガスなどはすらすらと出てくるが、下水道はなかなか登場しないという。そんな時、もしホテルの下水が詰まってしま、トイレが使えなくなったら、お客さまは3時間ぐらいいらいませんかよ、とお話になるそうだ。

「ペットボトルやライターがあれば、火や水は持って歩けますが、自分のものをビニール袋に入れて、山手線に乗れますか」

そうお聞きになるそうで、確かにそのとおり、総員がそんなものをぶら下げていた日には、たまったものではない。

■下水道は資源の宝庫

いま東亜グラウトが取り組んでいるのが、下水道の再生である。大岡さんはそれを下水道のリハビリと呼ぶ。ただ単に「改修」するだけでなく、下水道管を流れる下水から資源を取り出すもうひとつの「回収」もテーマなのである。14世紀にイタリアから始まった文芸復興になぞらえてルネサンスシステムと呼ばれるそのプロジェクトは、ヒートライナーと呼ばれる熱回収用の熱交換マットを下水道内に設置し、そこから取り出した熱を給湯、冷暖房や融雪、さらには農業などに利用しようという試みで、すでに数箇所を実証実験を開始し、実績を上げてい

「ベットのボトルやライターがあれば、火や水は持って歩けますが、自分のものをビニール袋に入れて、山手線に乗れますか」

るという。下水道のリハビリとともに、これまでただ捨てられてきた下水道内を流れる「熱」を回収できるシステムを付加することは、温水を利用することの増えた私たちの生活によって下水道が流れ込む川などの水温が上昇するという環境問題を解決するだけでなく、取り出した熱を快適な生活や環境整備、さらに農業分野にまで活用する、一挙両得の取り組みなのである。



ヒートライナーによる融雪の実証実験



ルネサンスシステムによる植物栽培の実証実験

ちなみに国土交通省「下水道熱利用プロジェクト構想構築支援事業」として新潟県十日町で行われた取り組みでは、対象となった保育園におけるストープの灯油補充頻度が「2日に1度」から「2週間に1度」になったという報告もある。さらに農業分野でも、下水資源・エネルギーを活用した植物生産技術の開発への取り組みがスタートしており、下水熱を利用した冷水を使つての梅花藻やワサビの栽培、さらには温度コントロールによって収穫時期を調整できるイチゴ栽培などの実証実験もスタートしている。

大岡さんは、すでに創業100年目にあたる2057年を視野に入れており、創業から今を経て未来に続く双六のような、東亜グラウト工業グループの100年計画が示されている。

日本全国の下水道管をつなぐと46万キロメートル以上、地球を11周する長さになる。地球から月までの距離（約38万キロメートル）をはるかに超える長さなのだ。その多くの下水道が、これから次々とリハビリ、つまり管路のメンテナンスを必要とするのである。

大岡さんは、東亜グラウトの歴史と未来を示すチャート

■戻らない100年双六

大岡さんの経営者としてのお話で興味深かったのが事業展開への視点だ。1958年の創業当時の地下鉄工事や地盤改良工事などの「地盤改良事業」、1980年代初頭の「管路メンテナンス」への取り組み、さらに1980年代後期の「斜面防災事業」などを経て、21世紀に入ると様々な水関連新規事業への取り組みをスタートしてきた東亜グラウトの歴史をお話いただいたが、大岡さんは常に未来を見据え、どのような

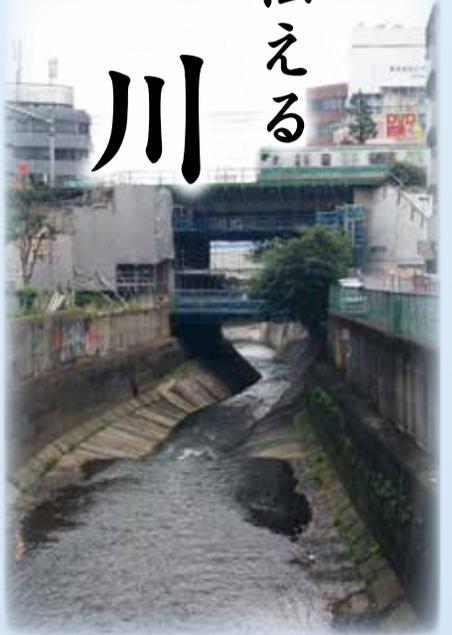


ご子息の太郎さんと

人工にして自然

江戸の歴史を伝える

神田川



三堀へと続く水路が整備された。ちなみに、神田川は柳橋で、日本橋川は永代橋上流で、亀島川は佃大橋の上流で、それぞれ隅田川に合流する。

■上水としての終焉と汚染

江戸の町に生活水を供給していたのは、玉川上水、本所上水(亀有上水)、青山上水、三田上水(三田用水)、千川上水、そしてこの神田上水で「江戸の六上水」と呼ばれたが、江戸が東京へと時代が進むと都市開発によってこうした上水はその機能を失い、開発の波にのまれていく。神田川もその例にもれず、下水の流入が増え、都市の排水溝と化していった。さらにコンクリート三面張りの護岸工事によってコンクリートに固められた川は汚れた水を地中に浸透させることもできず、水の自然浄化作用を失ってしまった。

1960年ごろには、生活廃水や産業排水が急速に増え、湧水の減少も重なって水生生物が息できない川となってしまうたのである。そうした中1949年には今の高田馬場の西側、落合に下水処理場(現・水再生センター)が計画された。当初は地元や新宿区議会の猛烈な反対もあったというが、1960年に着工され1964年に完成された。総工費は当時で73億4000万円だった。

死の川と化した神田川の水を蘇らせる大切な役割を果たしている。

■神田川に鮎が遡上した

落合水再生センターから排出される処理水は1日平均45万立方メートルといわれ、一部は再生水として西新宿や中野坂上地区のビルのトイレ用水や城南三河川の清流復活事業に活用されているがその大半は神田川に放出されている。水再生センター直下の文京区周辺における神田川の流量が1日およそ43万立方メートルというから、神田川の下流域を流れる水の9割以上が落合水再生センターから排出される放流水ということになる。

1987年に始まった3次処理の実用化以降、徐々に神田川の水は美しさを散り戻し、1992年の9月、40年ぶりに1尾の鮎が神田川で捕獲された。東京都島しょ農林水産総合センターのレポートによれば、1993年6月4日に職員の打った投網に22センチの立派な鮎が捕獲された。翌年春に行われた再調査によって、神田川に生息する鮎は東京湾から遡上した個体であることが確認され、神田川の再生が確実に進んでいることが確認された。

では、この神田川の鮎、実際に食べることは可能なのだろうか。残念ながら、神田川に限らず、都内の都市河川は「合流方式」という、下水と雨が同じ配管で流れる下水処理方式を採っている。つまり、大雨が降ると、再生センターでは水が処理しきれなくなり、その分を直接川に流すこともあり得るということなのだ。そうなるトイレや風呂

などの家庭からの排水の一部が川に直接流れ込むことになり、一気に水質が悪化してしまう。調べれば大腸菌ぐらいは見つかることになるだろう。やはり食べるのはお勧めできない。というのが実情のようである。



■これからの神田川

一五輪に向けて一

神田川がいかにもきれいになったとはいえず、まだまだ「都民の川」とは言い難い状況であることも否めない。川の両岸はコンクリート壁で固められ、人々の川との接点を拒絶し、おいそれと水辺に近づけないのが現状である。2020年には東京にオリンピック・パラリンピックがやって来る。世界の方たちをお迎えするにあたり、鮎が食べられるくらいとまではいわなくとも、せめて「親水」という言葉通りにそのまま触れることができると、川岸に立つてその水に触れることのできる護岸の環境整備が進めばよいと願う。

■家康の江戸づくりと神田川

1590年、秀吉から関東の地を与えられた家康は、太田道灌の築いた江戸城を根拠に領地の経営に乗り出した。当時は霞が関と江戸前島と呼ばれた半島に挟まれた日比谷入江が江戸城の目前まで迫っており、江戸の町はどこを掘っても海水が湧き出す、水に乏しい土地であった。家康は江戸の町づくりのために、船を活用した物流ルートの整備と家臣や町民のための城下町の整備を行ったが、水路の整備はとても重要なテーマだった。

まず当時は平川と呼ばれていた神田川を道三堀に繋げ、日比谷入江ではなく江戸湾に流入するようにして運河としての機能を持たせた。1603年に征夷大将軍となり、江戸幕府を開くと、全国の大名城に命じて江戸城の整備を行い、その土木工事から発生した残土を利用して日比谷入江を埋め立て江戸の町を築いていった。神田台と呼ばれた台地を切り崩して水路を開削し「仙台堀」が生まれ、平川を隅



神田川の終点、柳橋のかつての姿。写真提供：柳橋 船宿・小松屋

■源流は三本、支流は二本

神田川の水源は、本流が三鷹市にある井の頭池であるが、それ以外に杉並区北西端の善福寺池を水源とする善福寺川、杉並区上井草付近にある妙正寺池を水源とする妙正寺川の2本の源流を持つ。さらに支流の支流としては中野区の下徳田橋から江古田公園付近で妙正寺川に合流する江古田川がある。

家康から上水道の整備の命を受けた大久保藤五郎が、小石川(現在の後楽園付近)の流れを利用して作った上水が原型となり、1629年に神田上水が生まれ、小石川地区と神田川以南の日本橋、京橋、大手町地区に給水していた。さらに小石川の取水場所から河口までは、江戸城の軍事上の要として外堀の機能を果たし、さらに生鮮食品等の大量消費地である江戸への物流の要となる運河としての機能まで持っていた。

こうした目的で、まず水道橋付近で日本橋川が分流し、さらにこの日本橋川も茅場町あたりで亀島川として分流し、江戸城への物流の要所となった道



「持続可能性」を謳う

オリンピック・パラリンピック競技大会は オーガニックが決め手

オリンピック・パラリンピックにおける

食材調達基準の大きなポイントがオーガニック。

「BISTRO下水道」はレガシーになれるか。

リオデジャネイロのオリンピック・パラリンピックが終了し、いよいよ2020年、東京にオリンピック・パラリンピックがやってくる。

あまり知られていない事実だが、2012年のロンドン大会から、選手村の食事には「食材調達基準（フードビジョン）」が設けられるようになり、そこには地元産であること、オーガニックであること、季節の野菜であること、フェアトレードであること、そして持続可能な農業といった条件が銘記されている。

既に欧米の先進諸国では農業や化学肥料への抵抗感が強まる傾向も見られ、オーガニック食材への取り組みは着々と浸透しつつあるというが、我が国の場合、戦後に農業を多用する農業が全国に広まったことが要因となり、なかなかオーガニック農業が定着しない傾向が強い。

農林水産省のレポートによれば、2011年の有機農業（オーガニック）が農業全体に占める割合はイタリア8.6%、ドイツ6.1%、イギリス4.0%、フランス3.6%、カナダ1.2%、アメリカでも0.6%なのに対し、日本場合は0.2%しかなく、同じアジア地区でも韓国は1.0%、中国の0.4%に及ばないのが現状だ。

下水道から生まれる様々な資源を活用し、美味しく安全な食材を提供するために生まれた「BISTRO下水道」の取り組みは、まさにこのオーガニック食材の普及に合致す



るものであり、来るべき2020年に向けて、オリンピック・パラリンピックの選手村やキャンプ地における食材供給に貢献できる可能性が高まってきているのである。

オリンピック・パラリンピックを契機に、美味しく安全な食を確保するための有機農業への推進が不可欠となる中、「BISTRO下水道」の取り組みは大きなチャンスを迎えようとしているのだ。

■服部幸應氏との会見

日頃より「BISTRO下水道」への取り組みを行っている下水道広報プラットフォーラム(GKFP)の代表が、8月29日、東京・代々木にある服部栄養専門学校をお訪ねし、我が国の「食」の権威として知られる服部幸應氏に面会。「BISTRO下水道」への取り組みについてご意見をいただくチャンスを得た。

冒頭、服部校長は加藤裕之GKFP企画運営委員長から「BISTRO下水道」への取り組みの説明を受けた後、農業や化学肥料に頼らず、安全かつ安心な食材を供給できる「BISTRO下水道」の活動について、「取り組みそのものはたいへんすばらしい」と高い評価をしたものの、「BISTRO下水道」というネーミングについては「一般の感覚からして『下水道』という言葉には抵抗がある。食材である以上、口にしたいと思えるネーミングを検討したらいかがですか」とアドバイス。

さらに冒頭の東京オリンピック・パラリンピックへの取り組みと関連付けて、全国の自治体への波及する「BISTRO下水道」の展開に興味を持ち、選手村やキャンプ地に食材を提供する際の「食材調達基準（フードビジョン）」との関連の可能性についても貴重なご提言をいただいた。

服部幸應氏自身「食育」とともにオーガニック食材の普及・啓蒙に尽力されていることもあり、今後の展開について様々な可能性が生まれる会見となった。

■レガシーへの取り組み

本紙の2014年7月号において、江東区の山崎区長にお話をうかがった際にも、オリンピック・パラリンピック東京大会への取り組みとして、山崎区長はレガシーづくりの大切さは何度も強調されていた。

やりっぱなしではなく、オリンピック・パラリンピックが開催された後に次の世代に何が残せるか、は現代の開催国にとって大きなテーマなのである。

そうした動きは衆目の集まるどころとなり、競技場などの施設をはじめとする物理的なレガシーのみならず、文化面におけるレガシーづくりも大きくクローズアップされてきている。

2012年のロンドン大会におけるスローガンは「Inspire a Generation」（次世代へ息吹を）であり、大会開催後の遺産をいかに次世代に受け継いで

いくことができるかが問われた。

現に開会式や閉会式が行われた競技場は今も現役で陸上競技大会に使用され、さらにラグビーワールドカップの開催会場のひとつになり、サッカー・プレミア・リーグのウエストハム・ユナイテッドが本拠地として使用されるなど、北京やアテネの場合と異なって、廃墟になるようなことはないし、ロンドン自体は、今でもこの次世代につながるレガシーへのチャレンジを続けているという。

さて、「食」に目を向ければ、ロンドン大会における食糧調達の指針は、

1 地元産

2 持続可能な農業

3 オーガニック

4 季節の野菜

5 フェアトレード

6 栄養バランスに優れたメニュー

の6項目で、こうした「食材調達基準（フードビジョン）」への取り組みは8年を過ぎた今もロンドンの町に受け継がれているという。リオデジャネイロ大会は終わったばかりだが、そこでも「食材調達基準（フードビジョン）」への取り組みは行われており、今後いかにその遺産を受け継いでいくかが問われることになる。

■事前キャンプ地の誘致も

大きなテーマ

ロンドン大会から始まった、次世代に受け継ぐ遺産づくりという課題は、当然ながら東京大会にも課せられることになる。

物理的な施設のみならず、「食」の世界においても、「食材調達基準（フードビジョン）」への取り組みは重要なテーマとなり、そしてその実現を果たしたうえで、いかに次世代に受け継いでいけるのかが大きな課題となるのだ。

前出の通り、農業分野における我が国のオーガニック食材の生産状況は世界でも最低レベルであり、4年後に迫った東京大会に向けて、食材調達分野におけるオーガニック化と自国生産の推進は大きな課題となっている。

その取り組みの一端として「BISTRO下水道」が果たすことのできる役割は決して

小さなものではないだろう。

すでにオリンピック・パラリンピック東京大会に向けての取り組みは各方面でスタートしているが、とくに自治体と各国の各競技団体との交渉によって決定される「事前キャンプ地」の争奪戦は、地方創成という観点からも重要であり、「食材調達基準（フードビジョン）」を巡る取り組みは事前キャンプ地の誘致において大きな判断基準となることが考えられる。

すでに「BISTRO下水道」への取り組みを始めている自治体にとっては大きなチャンスが巡ってくるのだ。

■東京大会におけるレジエントづくり

2012年のロンドン大会のみならず2016年のリオデジャネイロ大会においても資源の「持続可能」という課題が重要視されている。

例えば農産物においては、適正農業規範といわれるGAP (Good Agriculture Practice) の認証による環境配慮や安全衛生への管理基準があり、海産物では海洋環境を守り、水産資源の持続的利用に配慮した海産物を認証するMSC (Marine Stewardship Council) 認証がある。

ロンドン五輪ではこのGAPのみならずオーガニック、つまり有機農産物など有機認証食材であることを条件とし、自然循環や持続可能性を重視した取り組みが行われた。

ロンドンやリオデジャネイロに負けない、質の高い大会とするために、今こそ東京大会を契機にGAPの認証の推進とともに、オーガニック食材の普及・啓蒙を推進しなければならぬ。

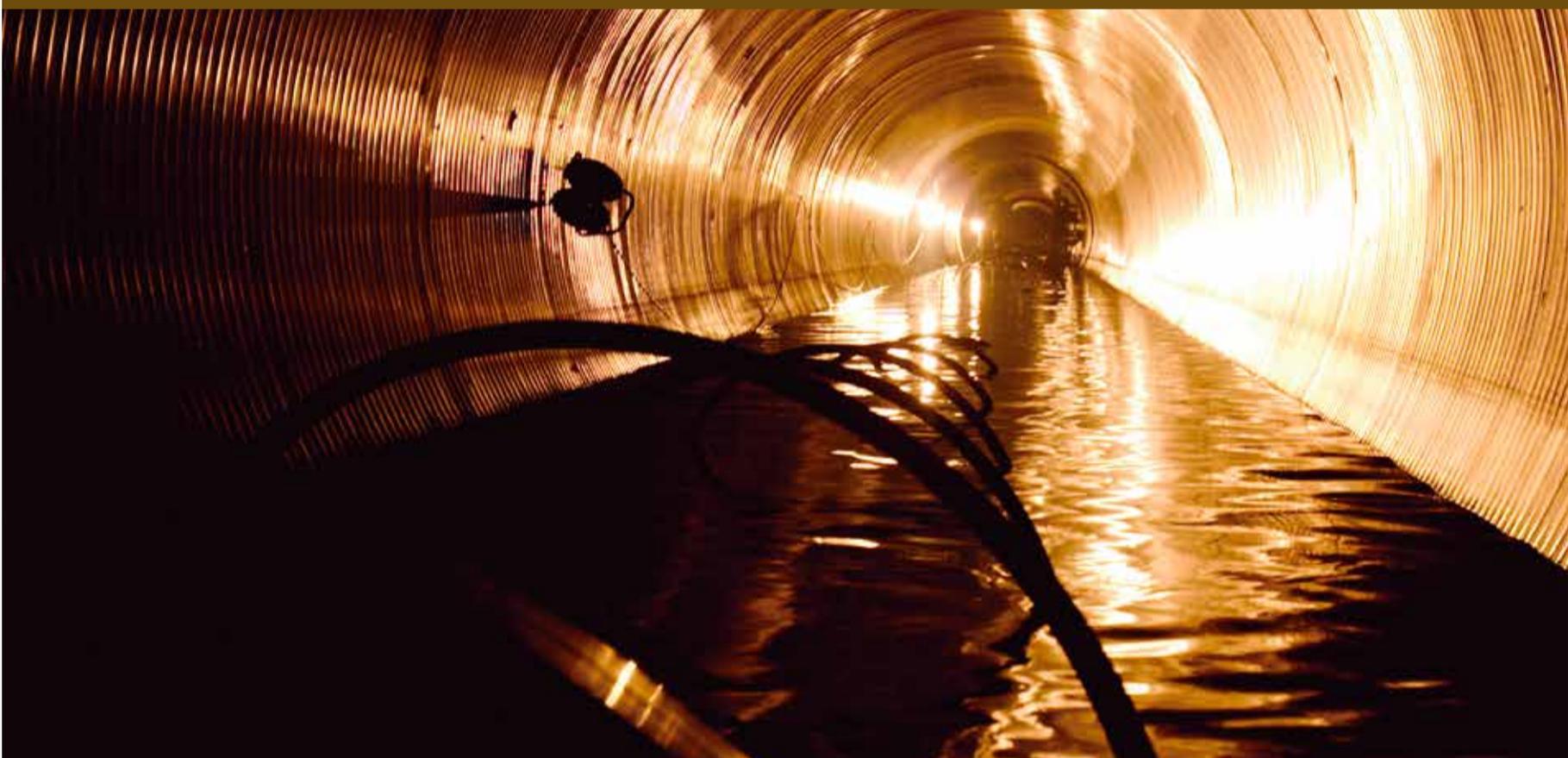
選手村の食堂を「和食を世界にアピールする場」と標榜する東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の意向もある。せっかくの和食の材料が国産のオーガニックであることは極めて大切な要素であるはずだ。

そして、その「食材調達基準（フードビジョン）」を次世代に受け継いでいくことこそ、オリンピック・パラリンピック東京大会のレジエントづくりに繋がるのである。



今夜は下に注目してみませんか？

SEKISUI



あなたが歩いた道の下には下水道が走っています。
 あなたが歳をとるように下水道も歳をとります。
 あなたが病気のと看治療を受けるように下水道も治療が必要なときがあります。
 今夜あなたが歩いた道の下水道はその治療を受けているかもしれません。
 驚くほど多くの下水道が老朽化という問題を今、抱えています。
 今できる最良の策が、最良の未来を築いていきます。それは「あなた」も「下水道」も同じです。
 積水化学は最新テクノロジーでインフラの未来をサポートしていきます。

積水化学工業株式会社 環境・ライフラインカンパニー <http://www.eslontimes.com>





災害時の強い味方

江東区の緊急情報はレインボータウンFMで

- ・災害時の緊急伝達手段として機能します
- ・地域に密着した緊急情報をいち早く伝えます

8:00~22:00全番組生放送(土日は9:00~22:00)

Time	Day	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun		
7:00		朝まで音楽~Non Stop Music (株式会社 有線ブロードネットワークス提供)								
8:00		江東区の地域情報、交通情報、ニュースを音楽と共にお届けします 大江戸ワイドスーパーモーニング [こうとうCITYインフォ]					小林香織 星間美佳 小川花子 星間美佳 巻本知美	シンクロ☆プラス Magi's Cafe	ラジオdeハビネス 杉山明久美 夢スイッチオン 池田光晴	
9:00		[こうとうCITYインフォ] 国 都政最前線					読売 国 国	江東モ〜ニングゲッ!! 上村潤 新井美穂	大江戸情報局	
10:00		おもいで歌謡うた物語 国 大木綾子		野村未奈 徳永淳とコロラティノ		Crystal ISM 立花英樹		ママそら モーニングカフェ 奥田絵美	ラジオこうとう 高井順子	
11:00		イレブンミュージック 国 Chiaki		松本哲浩		高松侑生 奈月れい		Weekend Fun クロリサ 早乃香織 劇団EXILE 福井研一 小野真一	大江戸情報局 甚野謙 [教育は現場で動いているんだ!]	
12:00		ポップス・ロック・ジャズ・オールディーズ… 懐かしの洋楽ナンバーから最新ヒットチャートまで… あなたのリクエストで作るジュークボックス!!								
13:00		Radio JUKEBOX 国 毎度おきに福原さん!		今週のSUNAMO		今週の東都よみうり		D J キノポップ	大江戸ワイド Super Saturday 林漢清 こごま	ラジオドラマ甲子園 インスタントジョンソンじやいの サンデーちゃん
14:00		元気de満タン! 竜小太郎 堤大二郎 ミッチーナ 秋川百合 DJ遊子	下町わいわいトークキング 米山正勝	Crystal☆Shower Crystal Member	Stand by Me 二喬礼	滝 洗一郎の一刀両断 羽純&YUKIKIYの Colorful Happy Life	HAPPY-GO-LUCKY なんじゃシスターズ 加藤一華 新垣こづ枝 我妻美月 木村桜	ラジオですいません K-triangle		
15:00		ニュースや生活情報を心地よい音楽やトークと共にお届けします								
16:00		アンフェリシオン スタジオから放送 大江戸ワイドスーパーアフタヌーン [こうとうCITYインフォ]					読売 国 国	サタマニ! 宮路一昭 音狐 佐倉薫 村崎弘史 星守紗凪 東城咲耶子 村田綾野	江東アフタヌーン!! Synchronize to Amami 牧岡奈美 倉橋美香子	
17:00		泉水いづみの ねばる門には福来る 泉水いづみ 浅野勝盛	あすか美生の Dreamドライブ あすか美生 みっちー	みさよの ふるさと自慢味自慢 ラジオこうとう 望月香織	原めぐみの ENJOYトーク 原めぐみ 壮一朗 星乃愛実 町田正	Richymanの エンタメ倶楽部 Richyman 堀名恵 廣瀬利奈 澁川知世	ミュージックデリバリー KATSUMI 広瀬玲奈 Reona あやの MORISHIN KIKURI	ROCK'A BEAT CAFE 広瀬玲奈		
18:00		MASAKI世界一周の旅ラジオ 松本美奈子のbeautiful days								
19:00		大江戸ワイドスーパーイブニング [こうとうCITYインフォ]					読売 国 国	PEACE! AERIAL	800カンパニーの 聴くしか〜 ないないな〜い! 総活ラジオ! 想いの時 肘井直也	
20:00		ヒアタルシアタル! 濱田和幸 清河寛 嵯峨完	火曜BEAST!!!! 北村優衣 RBT4G 浜田由梨 VIC.CESS 高山璃奈	KIBA BREEZE !!! サネカタツイセイ 永井俊幸 木幡ケンヂ 高橋としみ supAma 春那美希	東京スカイラジオ 風呂わく三 高木英理香	Friday Hit☆Magic クルトウラ 農林学園アイドル部 黒木エミー Show Yamamoto 椎名慶治 ドルランメンバー	792 TOKYO HOTLINE FRANKEN MC景虎 DJ K.T.	松岡美穂の好きで何が悪い ミチヒサのRock The Spirit		
21:00		Crystal Rainbow Club 樹凜 ミッチーナ	ミュージックデリバリー 浅見ユウコ 空想委員会 武部聡志 鳥山雄司 松岡英明	猫ひろしの キバRunラジオ Fishing Train 吉田遊 吉田肇 戸村竜太	アキナめぐみの ふれんど3ナイト♥ Frekul×タダオト Broadcast	今西祐介の ハロアル・レディオ Perfect Free 雅也 吉田佐和子 コタニキンヤ YUJI (D-SHADE)	Saturday Disco Power Power 98	TALKひぼぽたます スパー☆流村 ユメモノガタリ Dream Hachting		
22:00		Happy Tonight Mikina Kaori	小山田将のシネマサプリ 小山田将 清水由紀	Idobata Now 王真祐 川本まゆ 青木梨乃	江東ニッドナイト!!	おとねとと YUJI (D-SHADE)	放課後ポニーテール コータロー	善生新 幸せ DE Night 杉岡玲子		
23:00		Fan×Fun 国 ウエイウェイ 阿部剛大 国 フォンチー AKANE 国 桐村まり 国 レノ聡 木村昂 国 大橋歩夕 亀谷理子								
24:00		朝まで音楽~Non Stop Music (株式会社 有線ブロードネットワークス提供)								
		70's Hits	80's Hits	90's Hits	Love Ballad	R & B	Soul	Jazz		

レインボータウンFMのインターネット放送でもお楽しみいただけます。レインボータウンFMのインターネット放送でもお楽しみいただけます。 ※ 番組は予告無く変更する場合があります。予めご了承下さい。



このスタイルが気に入るなら、お勧めだ。

林溪清の乗ってみまじた

南伊豆まで取材に行くついでに、ホンダの超人気軽自動車N BOX SLASHに試乗した。トリッキーなスタイルで人気のモデルだが、ほんの少し走っただけで、ノーマルのN BOXやN WGNに比べると、ボディの建付けがしっかりしていて軽自動車とは思えない剛性感のあるものであることに気付く。残念なことには、その剛性に足回りが対応しきれていない感じで、特に低速での走行時にバタバタした感じがあるのは否めない。

この剛性はどうかやたらオーディオに凝った開発の産物のように、静かな室内空間を追求した結果だという。

走りは今どきのターボ付きの軽らしく、高速道路でも流れに乗るのに苦労するようなこともなく、生き生きと流れに乗っていきける。燃費については、飛ばせばそれなりにガソリンを消費するが、大人しく走って行けば1リットルあたり17〜18kmは実現可能だ。後席に座ってみて感じたのは、デザインの斜めにカットされたサイドウィンドウの圧迫感だ。せつかく屋根が高く、広い空間を実現できているのだから、視界にも開放感がほしいところだ。それがほしいなら、NON EやN BOXを選択せよというところだろう。

編集後記

2009年7月4日、江東区のコミュニティFM局である「レインボータウンFM」の「大江戸ワイドスーパー・サタデー」のマイクロフォンの前に座って7年余りが過ぎた。

スタジオにお招きしたゲストの方たちのお話は筆者にとって貴重な勉強の場でもあり、そこをきっかけに、「江東フォークフェスティバル」や「シェアリング」のお手伝いもさせていただいた。

そんな筆者が2016年11月7日、番組に出演していただいた内モンゴル出身の馬頭琴奏者、セーンジャー(賽音吉雅)氏のお誘いを受け、豊洲シビックセンターホールで開催された馬頭琴とピアノのコンサートのステージに立たせていただいたのである。

セーンジャー氏はもとより、ピアノの渡辺ら夢女史やスタッフの方たちのお力添えで、曲がりなりにも役割は果たせたと思う。台本は書いたことがあっても自分でマイクロフォンに向かったことがない筆者だが、文字通り「継続は力なり」である。

それもこれも、暖かく筆者を見守ってくださったレインボータウンFM放送株式会社の皆さん、そしてゲストのみなさん、さらに長岡幸子さん、松岡美穂さん、森田千鶴さんという歴代のパートナーのおかげである。

今後も頑張ります。みなさま、よろしくご指導・ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

「江戸まち通信」平成28年11月号
2016年11月15日発行

【発行】特定非営利法人 江戸まち通信
http://genki365.net/gnkk22/mypage/index.php?gid=G0000072
〒136-0071 東京都江東区亀戸3-61-8-101
TEL03-6802-9595

【編集・発行人】 林 溪清
【デザイン】 株式会社 エコ企画
【製作協力】
レインボータウンエフエム放送株式会社

広告・情報募集中

「江戸まち通信」編集長 林 溪清